

---

# 早苗パンは食っても食われるな(?)

かるびーえーる

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

早苗パンは食っても食われるな(?)

### 【Nコード】

N7927E

### 【作者名】

かるびーえーる

### 【あらすじ】

ある休日、俺、岡崎朋也はオッサンに誘われる……「おい？おめえいける口か？」……何が。

俺、岡崎朋也と古河渚が同棲し、結婚し、さらに2人の間に岡崎汐を授かりそれから数年の時が流れ、街の様子もみるみる内に変わり、それでも俺達、岡崎家は順風満帆に幸せな日々を過ごしていたある日の事。週末の日曜には必ずと言っていいほど俺達3人はオッサンと早苗さんの家に来ている。オッサンは俺の顔を見るやいなや……

「おい、おめえいける口か？」

「来ていきなり俺に対しての第一声がそれかよオッサン……」

「昼間からお酒はダメです！お父さん！朋也君が不良さんになっちゃいますっ！」

「あゝ違う違う、酒の事じゃねえよ。これだ、コレ」

ジャラジャラジャラ~~~~~……

オッサンは渚や汐の前で何のためらいもなく平気で麻雀牌を出した。少しは後ろめたさを感じるよ……

「今日はコレで遊ぼうじゃねえか」

「おい、おっさん今度は何を企んでる？」

「何にもやましい事なんざねえよ、我が『息子』よ」

「ぐあ……『お父さん』、隠し事はいけませんよ」



自分が今、口にしたことに気付いたのか渚は赤面しながら俯いた。  
かわいい……

「おいおいおい………てめえ、人の家でラブコメか？コラ？フラグ  
だけでなくそこもおっ立ててんじゃねえだろうな？コラあ？」

右手の親指と人差し指で輪を作り、上下に動かすジェスチャーをす  
るオッサン……

「？あつきー、『ふらぐ』ってなに？」

興味津々な顔でオッサンに聞いてくる汐を玩具で誤魔化した。

「オッサン………自分の娘と孫の前で下ネタに走るのはよせ………（汗）  
」

「ちっ、あの頃の若かりし早苗を返せ、バーカ」

なんで悪態を尽かれなきゃならん……

「というわけで、小僧、あと一人誰か暇そつな奴連れて来い」

「おいおい待てよ………その前に渚、お前麻雀のルール知ってんのか  
？」

「はい！分かりません！！！」

いや………そんな自信満々に言われても………

渚に簡単に一通りのルールを1時間ほどで説明した。こんなんで覚

えられるとは到底思えねえけどな……

なのでとりあえずあがり役を俺が作って渚にテストをしてみた。

「じゃあ、渚。この役は何て言うんだ？」

俺は簡単な『七対子』<sup>チートイツ</sup>という七組の対子の役を作って渚に聞いてみた。

「えっと……ろ、ろいやるすとれーとふらっしゅ？」

「それはポーカーな。てかなんでんな長い役は覚えれるのにこの役はでてこねえのかな？」

「じゃ、じゃあ、し、四連連撃霸道拳！……！」

「んな新種の役を勝手に作るな。でも、何気にカッコいいなソレ」

大丈夫か……（汗）

「遅いぞ、ヘタレ」

「そっちから呼び出しておいてなんで偉そうなんすか！？あんた！？」

残りの一人は春原を電話で呼び出しておき、一時間後にこのことやって来た。

「…で？岡崎！僕のこと大好きな20代前半でEカップで笑顔が心を癒してくれる癒し系のねえちゃんはどこにいんだよ！？紹介してくれんだろ！？うへへへ」

適当な理由で春原を呼び出した。もちろん本当のことは春原には言っていない。

「ああ……その台所で待ってるよ。『僕の鞘になってください！』とおねえさま……！キャホー……ウ……！』とか言いながら裸で抱きしめるよ」

「そうだね……！きっと僕のことを裸エプロンで待ってるかもしれないしね……！楽しみだなあ……！はあはあ……」

鼻血を垂らしながら素敵な妄想を抱く春原。なるべく視界に入れないな。

「ああ、だからとつとと逝け」

「うん！行って来るよお岡崎！キャホー……ウ……！！！」

台所に向かって服を脱ぎながら全力疾走で走り出す春原。アホだ。

「…朋也君、嘘はいけません」

「嘘じゃねえよ」

「？」

少なくとも癒し系のおねえちゃん……いや女性は、な。そして春原は台所に入って行き……

「僕の鞘になってください！……おねえたま！……キャホー……ウ！……！！！」

バキッ

すると変な音が聞こえてきた。

「ひ、ひいいいい……」

半分服がはだけた春原が情けない声を出しながら台所から這い出てきた。そして後ろいたのは……

「てめえ……人の女に手を出そうとするとは……いい度胸だなあ？ ああん？ オイ？ コラ？」

オッサンだった。その場で殺気を放ち、仁王立ちしていた。

「お、岡崎い！ た、助けてくれえ！！！！（泣）」

鼻水を垂らしながら俺に助けを乞う春原。なんかキモイな。

「春原……今度、俺が良い弁護士を紹介してやるからな……ドンマ イ 陽平ちゃん」

「お、岡崎！ て、てめっ！！！！（汗）」

「Hey、金髪ボーイ。ちょっとこっち来い」



「さて、んじゃあ揃ったし始めるとするか、まずルールを説明するからまあ座れ」

俺、オッサン、渚、春原らしきもの（？）がイスに座る。

「といっても別に普通の麻雀のルールと変わらねえけどな、ただ違うのは点数制でやらねえことだ」

「?どういう意味だ?オッサン?」

「直撃ロンやツモ和了あがりの時、これを相手に食わせる」

オッサンが出したものは……どでかいダンボール。その側面にはデカイ赤文字で『早苗パン』と書かれていた……

「おい、まさかコレ……」

「ああ、もし満貫未満であがった場合、1個プレゼントフォーユー、満貫は2個プレゼントフォーユー、ハネ満は3個プレゼントフォーユー、倍満は4個プレゼントフォーユー、3倍満は5個プレゼントフォーユー、役満は……全部プレゼントフォーユー!!!ひゅゅやったね ぱちぱちぱちぱちゅゅ」

「ざけんなっ!!!用は売れ残りの処理って事じゃねえか!!!俺は帰るっ!!!」

「パパ頑張って」

「朋也君!頑張りましたよ!ふぁいと、おーです!!!」



「くっせえ〜俺に近寄んなよ」

「あんた昔から性格全然変わって無いっすねえ!？」

「こうして命(?)を懸けた麻雀がスタートした。

……

……

…

5分後。

「いや〜、マジで助かったぜ、ありがとな!金髪!」

結局、東1局で春原がオツサンから役満を振り込み、全部パンを処理する事となった。開始5分で終わる麻雀って一体……（汗）

「……………」

春原は早苗パンを口に突っ込んだままで白目をむき出して気絶していた。ちよつとしたホラーだ。

「はっはっはっ！いや〜〜処理パンに処理されずにすんだぜ〜〜  
なはははは」

「全然うまくねえからなソレ」

「おっし、今度から早苗パンを処理とかけて『シヨリシヨリパン』  
どうだ？おっ、なんか急に響きがえろくなつたよな？小僧？」

いや…聞かれても……

パリーン……

ガラスが割れた音……後ろを振り返ると……

「……………」

早苗さんが立っていた。ジュースの入ったガラスコップを落として割ったようだ。…心なしか涙目になっているような気がする……

「……………さ、早苗（汗）ち、ちがう…これはだな……………」

「わたしの……………私のパンは……………シヨリシヨリされる運命のパンだっ



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7927e/>

---

早苗パンは食っても食われるな(?)

2011年10月4日06時04分発行